

「新大分スタンダード」に基づく

「平成28年度版 今後の学力向上に関する取組の徹底」

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の実現

□共通

1 条件を付けて読み書きする指導の徹底

- (1) 学校図書館を活用し、並行読書・比べ読み・ブックトーク等、本に親しむ活動を実施する。
- (2) 文章・図表等から必要な情報を取り出し、それを活用して理由を説明したり、自分の考えや意見を書いたりする活動を実施する。
- (3) 単元構想に基づき、思考ツール等を活用した情報の整理・分析を行い、立場や根拠を明確にした話し合い活動を設定する。
- (4) 条件（構成、字数、キーワード等）を指定し、学習した用語を活用した書く活動をまとめや振り返りの中に設定する。

2 授業と宿題をつなぐ意図的・計画的な家庭学習の充実

- (1) 学習内容の定着確認・補充のための課題や自ら調べたり考えたりする活動を促すための課題を課す。
- (2) 望ましい生活リズムの確立に向けた具体的な目標や手立てを保護者と共に設定し、協働して取り組む。

3 探究的・協同的な「総合的な学習の時間」の改善と確実な実施

- (1) 付けたい力や学習内容が小・中で一貫したカリキュラムに改善する。
- (2) 「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」のサイクルで探究的な単元展開を行う。

□小学校

1 2か月程度を単位とした評価テスト等の確実な実施

- (1) 学期の半ばや終わりに2～3の単元等を範囲として評価し、補充する。
- (2) 各学年の課題や対策を学年外とも共有し、全校体制で改善に取り組む。

□中学校

1 単元構想に基づいた問題解決的な展開の授業の確実な実施

- (1) 「めあて・課題（見通し）→自力解決→交流→まとめ・振り返り」の流れを位置付けた授業を実施する。
- (2) 授業で学んだことが転用できるか、定着が不十分な事柄がないかを評価し、必要に応じて補充する。